

日曜礼拝 フィリピシリーズ 1

17th Jan 2021

Tokyo Church of Christ

フィリピの信徒への手紙

2021年東京キリストの教会 テーマ聖句

生きるとはキリスト
TO LIVE IS CHRIST
フィリピ[°]1:21

フィリピの信徒への手紙

- ・ 著者パウロ
- ・ 「手紙」：一方通行
- ・ 「獄中書簡」ローマの監獄から
- ・ 第二宣教旅行で設立された教会
- ・ パウロを財政面含めサポートし続けた教会
- ・ パウロにとって特別な存在
- ・ 教会宛の手紙としては最も個人的な手紙
- ・ フィリピの教会：迫害や教義の対立など難しい
状況

手紙のテーマ

「喜び」

16回 ⇒ 喜びの手紙

キリストを示す表現

104節ある中で51回！

1. ふるまいに気を付ける

フィリピ1：12－21（聖書協会共同訳）

きょうだいたち、私の身に起こったことが、かえって福音の前進につながったことを、知っていただきたい。つまり、私が投獄されているのはキリストのためであると、兵営全体と、その他のすべての人に知れ渡り、主にあるきょうだいたちのうち多くの者が、私が投獄されたのを見て確信を得、恐れることなくますます大胆に、御言葉を語るようになったのです。

フィリピ¹：12－21（聖書協会共同訳）

キリストを宣べ伝えるのに、妬みと争いの念に駆られてする者もいれば、善意でする者もいます。一方は、私が福音を弁明するために捕らわれているのを知って、愛の動機からそうするのですが、他方は、利己心により、獄中の私をいっそう苦しめようという不純な動機からキリストを告げ知らせているのです。だが、それが何であろう。口実であれ、真実であれ、とにかく、キリストが告げ知らされているのですから、私はそれを喜んでいきます。これからも喜びます。

フィリピ^o1：12－21（聖書協会共同訳）

というのは、あなたがたの祈りと、イエス・キリストの霊の支えとによって、このことが私の救いとなることを知っているからです。

そこで、私が切に願い、望んでいるのは、どんなことがあっても恥じることなく、これまでのように今も堂々と語って、生きるにも死ぬにも、私の身によってキリストが崇められることです。私にとって、生きることはキリストであり、死ぬことは益なのです。

フィリピ1：20（聖書協会共同訳）

そこで、私が切に願い、望んでいるのは、どんなことがあっても恥じることなく、これまでのように今も堂々と語って、生きるにも死ぬにも、私の身によってキリストが崇められることです。

“それ、やめなさい、恥ず
かしい！”

- ・招待されたら上席についてはいけない。
- 恥をかくから
- ・平手で打たれる、上着を与える、ほおを向けなさい
 - ・公で質問される：“名誉と恥”
 - ・十字架にかけられた理由のひとつ：公で指導者たちの名誉が崩された
 - ・“恥としない”
 - ・罪にも“恥と名誉”の側面がある

公になるふるまい

ふるまいに気を付ける

それは、結びつきとつな
がりがあるから

2. 自分の限界を知る

フィリピ1：21－26

私にとって、**生きることはキリスト**であり、死ぬことは益なのです。けれども、肉において生き続けることで、実りある働きができるのなら、どちらを選んだらよいか、**私には分かりません**。この二つのことの間で、板挟みの状態です。私の切なる願いは、世を去って、キリストと共にいることであり、実は、このほうがはるかに望ましい。

フィリピ1：21－26

しかし、肉にとどまるほうが、あなたがたのためにはもっと必要です。こう確信しているので、私は世にとどまって、あなたがたの信仰の前進と喜びのために、あなたがた一同と共にいることになると思っています。そうなれば、私が再びあなたがたのところに行くとき、**キリスト・イエスにある**というあなたがたの誇りが、私ゆえに満ち溢れるでしょう。

私には分かりません

“私たちの苦しみは、自分が動か
せないものを動かそうとすること
である”

26節

“キリストにある”

“キリストに結ばれている”

In Christ

“私たちの苦しみは、自分が動か
せないものを動かそうとすること
である”

“そして、本当には誰が動かせるの
か、その存在を分かっていないこ
と”



SUPERMAN

R E T U R N S

06.30.06

シェアリング
内御堂仁美さん

自分の限界を知る

生きるとはキリスト

1. ふるまいに気を付ける
2. 自分の限界を知る

日曜礼拝 フィリピシリーズ 1

17th Jan 2021

Tokyo Church of Christ